

**第 4 回 札幌市住まいの協議会 市営住宅部会 議事要旨****(1) 日時**

平成 28 年 11 月 1 日 (火) 10:00～11:00

**(2) 場所**

札幌市役所本庁舎 地下 1 階 2 号会議室

**(3) 次第**

- 1 開会
- 2 審議
  - (1) 答申 (案) について
  - (2) 次のスケジュールについて
- 3 閉会

**(4) 出欠状況**

(出席)

部会長	岡本 浩一	北海学園大学工学部 教授
委員	浅松 千寿	中村浅松法律事務所
委員	高田 安春	公募委員
委員	寺下 麻理	(社)北海道総合研究調査会 主任研究員
委員	平本 健太	北海道大学大学院経済学研究科 教授
委員	廣田 聡	(社)北海道宅地建物取引業協会 副会長

**(5) 傍聴人**

なし

**(6) 議事要旨**

- ・ P1 「I. はじめに」の締めくくりとして、“～要望します。”は、“答申します。”ではないか。諮問に対し、答申するというのが正しいのではないか。  
→答申内容を踏まえて積極的な住宅施策を求めるといふ、協議会の意向を表したものである。前段の“答申の内容を踏まえ、～検討を求めるといふ一文で答申の内容を受けた形となっている。(事務局)  
→指摘箇所の語尾は再度検討し、平本会長に確認いただく形としたい。(事務局)
- ・ P7 「1 (2) 市営住宅の将来的な総量抑制に向けた方向性の整理」は、“向けた”と”方向性“で、同じ意味の単語が並んでいる。”総量抑制に向けた整理“や、”総量抑制の方向性“という表現でもよいのではないか。
- ・ P8 「1 (3)」で、“～選考の仕組みづくりを継続することが必要です。”と記載されているが、必要に応じて住宅を提供することが重要であり、仕組みづくりは手段に過ぎないので、選考を継続することが必要なのではないか。
- ・ P10 「3 (1)」で、“～シェアハウスや大学と連携した施策展開など、自治会活動の維持・活性化

を狙いとした、～”と記載されているが、シェアハウスの活動や大学との連携と、自治体活動の活性化の関連性がやや薄いように感じるので、記載を整理する必要があると思われる。

- ・市営住宅の空き住戸の活用については、住まい以外でコミュニティや暮らしやすさに繋がるのならば、答申に書くかどうかは別に、柔軟な取組みも出来るような形で検討してほしいことを伝えておきたい。
- ・資料4に“サ高住”と略語が入っているので、説明書きなどでわかるようにしていただきたい。
- ・P9「2（1）」について、北海道で行っている“きた住まいる”について、北海道と札幌市の間で、住宅性能に関する意見交換は行っているのか。

→具体的な意見交換は特にないと認識しているが、北海道の動きは注視していきたい。（事務局）

- ・P7「1（1）」で、高齢者が安心して暮らし続けられる住環境の形成に関して、サ高住のことだけを取り上げているのはなぜか。

→札幌市が全国の政令市の中で最も多い状況にあるほか、以前複数あった高齢者向け住宅の制度をまとめてわかりやすくしたものがサ高住であるので、今後も高齢者向け住宅の中心になると思われる。特別養護老人ホームなどは施設という位置づけであり、別途福祉部局で計画を立てて進めているため、より役割分担があると考えている。（事務局）

- ・サ高住を最後まで住み続けられるようにするには、サービスを外から入れなければならない、その点は有料老人ホームと同じなので、分けている理由がよくわからない部分があった。サ高住の数が増え続ける中では、質を担保していくことが必要だと思う。

→サ高住で最低限提供しなければならないサービスは生活相談と安否確認である。これら2つだけを提供する場合は有料老人ホームとならない。しかし、札幌市内のサ高住では、これらのほかに食事などのサービスが提供されており、有料老人ホームの規制が併せてかかることから、福祉部局と連携し指導を進めているところである。また、介護関係等の併設施設があるところが多く、サ高住の数が多い札幌市は、入居者が必要とするサービスに応じて住宅を選べる状況にあると考えている。（事務局）

- ・国のCCRCについては、高齢者の暮らしに関する今後の動きの中ではかなり重要になると思われるが、札幌市では検討しているのか。もし進めているのであれば、本答申で触れることが必要だと思う。

→CCRCに関し、現在、札幌市でどのような状況かについては把握していないが、新しい取組みであれば、具体的な動きはないかもしれない。（事務局）

- ・最近、高齢者アパートのような一時滞在型の住宅がある。退院後、家に帰っても家族が仕事により誰もいないという人のために、一時的に滞在し、一定程度自立できる程度までリハビリをして家に帰れるようにしているところもある。このような住宅は、札幌では需要がありそうか。

→住宅というよりは、ショートステイのイメージと思われ、施設としてどのように位置づけていくかといった話になるかと思う。（事務局）

- ・今後、良質なストックとしては、箱だけではなくソフトと組み合わせることが重要になる。住宅と福祉サービスをうまく合わせていかなければ、良質な住宅ストックを形成することにならないと思う。
- ・農業関係者の多い地方の病院で勤務していた時に“退院して自分が家に帰ると家族に負担がかかるので、入院し続けたいと言われることが多い。”と聞いたことがあり、一時的に行政で頼める施設があればよいと考えたことがある。こういった施設は、在宅による高齢者の世話が難しくなることも考えられるため、札幌市においても今後需要が出てくるのではないか。
- ・良質なストックや安心・安全な住まいを考えたときに、住宅と福祉を分けることは今後難しくなっていくのではないか。施策を展開する中で、縦割りではなく横につなげて取り組むことが重要だと思う。

以上